

社会貢献



社会貢献活動基本方針



「豊かさを担う責任」という理念のもと、活動基本方針にて5つの重点分野を定めています。

社会貢献活動基本方針



1. 世界の人道的課題

伊藤忠商事は、グローバルに事業を行う企業として、世界における人道的課題に積極的に関わり、豊かな国際社会の実現に貢献します。



2. 環境保全

伊藤忠商事は、環境保全活動を積極的に行い、社会の持続的な発展に貢献します。



3. 地域貢献

伊藤忠商事は、良き企業市民として地域社会との良好な関係を構築し、地域社会との共生を図ります。



4. 次世代育成

伊藤忠商事は、次世代を担う青少年の健全な育成を支援する活動を行い、心豊かで活力ある社会の実現に貢献します。



5. 社員へのボランティア支援

伊藤忠商事は、社員一人ひとりが行う社会貢献活動を積極的に支援します。

社会貢献の主な活動

 組織統治
  人権
  労働慣行
  環境
  公正な事業慣行
  消費者課題
  コミュニティへの参画及びコミュニティの発展



世界の人道的課題



環境保全



地域貢献



次世代育成



社員のボランティア支援

伊藤忠記念財団への支援



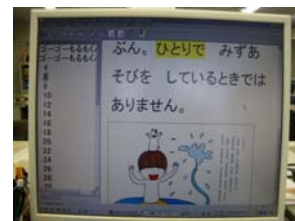
次世代育成

伊藤忠商事は、1974年に(財)伊藤忠記念財団を設立し、青少年の健全育成を目的とした社会貢献活動を進めてきました。同財団の現在の活動は、「子供文庫助成事業」(日本人学校、補習校への図書助成を含む)、「電子図書普及事業」等多岐にわたりますが、時代のニーズに合った新しい事業も検討しています。

詳細は、[伊藤忠記念財団ホームページ](#)  をご覧下さい。



助成図書を使って読み聞かせ
(東元町文庫 東京都)



電子図書(自分の読める大きさに文字を拡大できる)

災害支援義援金寄付



世界の人道的課題

人道的見地より、災害時の義援金拠出・物資の提供を行っています。現地の支店・事務所とも連絡をとりながら下記の支援を実行しました。

■ 最近の義援金拠出例

中国・甘肅省 洪水	¥10,000,000
パキスタン 洪水	¥3,000,000
オーストラリア 洪水	約¥8,000,000
ブラジル 洪水	¥5,000,000
ニュージーランド 地震	約¥1,800,000
東日本大震災	¥400,000,000

WFP 国連世界食糧計画への支援



世界の人道的課題

世界の飢餓・貧困問題を少しでも解消するため、国連の食糧支援機関であるWFP 国連世界食糧計画の公式支援窓口である国連WFP協会の評議員となり、さまざまな活動に参加しています。毎年横浜での「ウォーク・ザ・ワールド」に伊藤忠グループ会社社員とともに参加。(2011年は震災の影響により中止)2007年より12月には東京本社でWFPの活動紹介のパネル展や募金活動を実施しています。



WFP募金活動

NGO国境なき子どもたち(KnK)のフィリピンでの青少年支援施設サポート



世界の人道課題



次世代育成

開発途上にある国々のストリートチルドレンや大規模災害の被災児等を支援するNGO「国境なき子どもたち」(KnK)の活動を支援しています。2009年12月11日、当社の支援により、フィリピンのマニラ郊外に青少年自立支援施設「若者の家」がリニューアルオープンされました。2009年9月にフィリピンを襲った台風の際に、家を無くした子供達等が避難所として一時的に利用していました。現在、この施設を通じ、年間約1,000名の青少年へさまざまな支援が行われています。



新しくなった「若者の家」



施設を利用する子供達

フィリピンからのご報告 (KnKより)

「若者の家」を中心として、フィリピンにおけるKnKの支援活動はますます広がりを見せています。「若者の家」には現在14人の子供達が暮らすほか、コンピューターの技術訓練、青少年育成プログラムや母親層を対象とした啓発セミナーなどに毎月活用されています。今後も「若者の家」を拠点に、引き続きコミュニティベースの活動を拡大し、青少年とスラム住民への支援を実施します。



KnKのメンバーと

伊藤忠野球教室



次世代育成

青少年育成の一環として障がいのある子供達に、さまざまな事に挑戦する機会を与えたい、自分の可能性を見出す機会を創出する手助けをしたいとの考えのもと、2007年より野球教室を開催しています。

元ヤクルトスワローズ投手の矢野講師より、スポーツマンシップのお話や基礎的な動きなど、家庭での練習ではなかなか身につかない基本から、ノックのとり方や投球練習などの実践までを教えてください。指導のボランティアとして、伊藤忠商事相互会野球部に所属する社員も参加しています。参加した子供からは「初めての道具を使ってうれしかったです。これからもっと練習したいです。」などの感想があり、子供達をはじめ保護者、参加したボランティアの皆様からも大変好評を頂いています。



子供達と野球部員と一緒に練習

各支社支店の活動

国内外の各支社支店でも積極的にボランティア活動を推進しています。活動の詳細は「社会貢献レポート」をご覧ください。

社員の自主活動支援

社員の活動の支援のため「ボランティア休暇」を制定しています。

また、社内ではイントラや社内報等を通じ、さまざまなボランティア参加機会の提供を行っています。

社外団体(NPO・NGO)との協同ボランティア活動

社外の各種NPO団体等の活動に参加するボランティアの募集と活動のサポートを行っています。

社会貢献レポート(2010年4月～12月)



4月の活動

■ 2010年度新入社員研修にてWWFジャパンの生物多様性セミナー開催

WWFジャパンの河村業務室長をお招きし、生物多様性ってどのようなこと？私たちが気をつけることは？というお話をいただきました。一方的に講義を聴くのではなく、事前課題の答え合わせ等で会場は大盛り上がり。始終和やかな雰囲気の中、分かりやすく生物多様性を学ぶことができました。



■ ボルネオ植林体験ツアー説明会実施(東京・大阪・名古屋)

4日間をかけ、東阪両本社、名古屋支社にてツアー説明会を開催いたしました。

4月13日には、京都大学野生動物研究センターの久世濃子先生にお越しいただき、オランウータンの生態とボルネオの現状に関するセミナーを行いました。

動画を使用した講義はとても迫力があり、何故ボルネオの森を守っていかなければならないかが、今まで以上に理解できるセミナーでした。



■ 韓国にて植林活動参加(韓国伊藤忠株式会社)

4月10日、韓国伊藤忠の社長、副社長をはじめ、社員20名が「次の世代に向けた植林」活動に参加しました。

仁川の永宗島の「世界平和の森」助成対象地に到着後、まず森と木の植え方についての説明を受けた後、海松を植えました。作業は、石混じりの土でとても大変でしたが、互いに助け合いながら取組、みんなで何かを一生懸命やり遂げることの充実感を味わいました。



■ ニューヨーク市の公園で清掃ボランティア実施(伊藤忠インターナショナル会社、伊藤忠プロミネントUSA)

ある晴れた4月の土曜日、伊藤忠インターナショナル会社、伊藤忠プロミネントUSAの社員とその家族ら24名が集まり、ニューヨーク・メッツ・スタジアムとUS オープンテニスセンターの間に位置するフラッシング・メドウズ・パーク内のごみ拾いとベンチのペンキ塗りを行いました。



5月の活動

■ 琵琶湖を学ぶ環境ミニツアー実施

5月15日、グループ会社社員家族あわせ24名が参加し、滋賀県針江地区の川端見学と一昨年植樹を行った地球市民の森での植樹を実施しました。

針江地区には多くの家庭に川端(かばた)と呼ばれる台所があります。川端とは湧き水を自宅の炊事場に水をひきこみ、飲み水に使用したり洗い物などをする場所です。用途に合わせて区分けされている川端の一番下流にはコイが飼われ、残飯を食べているため、きれいな水を用水路に戻すことができます。



■ 第1回 さいたま農村ボランティア(田植えとサトイモの肥料入れ)

昔からの里の風景を残しているさいたま市さぎ山地区にて、グループ社員とその家族総勢60名で田植えを実施しました。この地域は、大宮や浦和より車で20分というアクセスの良い場所ではありますが、後継者不足などにより休耕畑が増えています。田植えの作業は子供達も泥んこになりながら真剣に頑張りと、また、昼食は釜戸を使用して藁でご飯を炊くという初体験だらけの一日でした。



■ 「赤坂青山美しいまちマナーのまち」キャンペーン外苑前清掃に参加

5月27日と28日に実施された、みなと環境にやさしい事業者会議主催の清掃活動に参加しました。今回は、外苑前駅周辺の清掃でした。

■ 中国の大学生ホームステイ1泊受け入れ

中国日本商会主催「走近日企・感受日本」にホームステイ受け入れボランティアとして協力しています。このプログラムは、未来の中国を担う中国の大学生を日本に招聘し、日本及び日本企業に対する理解を深めてもらうことを目的としています。今回も2家族に協力いただきました。



■ 伊藤忠奨学生ワークショップと里山保全ボランティア

5月28日(金)に、伊藤忠奨学生1期生2期生の45名が東京本社に集まり、ワークショップと懇親会を開催。翌29日(土)には、東京都西多摩郡日の出町にて、伊藤忠グループ若手社員9名とともに里山保全活動(竹切り)を行いました。

現地に到着後、地域のボランティア指導員の方々から説明を受け、ヘルメットを着用して竹やぶに突入。当日はあいにくの小雨で、急斜面で滑ってドロドロになりながらの作業でしたが、作業後は切った竹を使った竹細工作成体験をしたり、楽しい一日となりました。

昔は生活の一部として利用されてきた竹も近年は利用機会が減り、竹やぶが放置されて他の敷地を侵食するなど問題になっています。竹は成長が早い継続的な手入れが必要です。

今回、里山保全の重要性を認識すると同時に、奨学生と社員が交流を深めることができました。今後も年1回程度、奨学生と社員が合同で行うボランティア活動を実施予定です。



■ 5月29日の東京都障害者スポーツ大会に協力

伊藤忠商事は1994年より、食料カンパニーから飲料水の提供を行っています。また、今年はそれいゆ花の里の介助ボランティアとして社員とその友人7名が参加しました。

6月の活動

■ 港区立青山小学校3年生校外授業「高いところからわが街を見る」

今年も青山小学校の3年生22人が6月3日に東京本社ビルにやってきました。
高いところから見ると、自分が住んでいる町にはどんなものがあるんだろうと
自分の町を知るための授業です。



■ 障がいのある子供達とディズニーランドへ

6月4日(金)、KIDSプロジェクト2010に、社員5名が当日の運営とアテンドボランティアとに分かれて参加しました。昨年はインフルエンザ流行のため、あいにく中止となってしまいましたが、その分今年は子供達の笑顔が輝いて見えました。

■ 子供達の飢餓撲滅のための「ウォーク・ザ・ワールド」に参加

6月6日(日)に行われたチャリティウォーク「ウォーク・ザ・ワールド」(WFP国連世界食糧計画、国連WFP協会主催)に、グループ会社とともに参加しました。今年は伊藤忠商事より家族含め計87名が参加し、真夏のような暑い日差しの中情緒溢れる横浜の街を歩きました。



■ 日本赤十字社による社内セミナー「AED講習」(東京本社)

毎年4回シリーズで行っている、東京本社内日赤セミナーの1回目を6月16日に開催しました。
今回はAEDを使用した救急救命法を31名が学びました。



■ New YorkのCentral ParkにてCorporate Challengeレースに参加(伊藤忠インターナショナル会社)

6月17日、伊藤忠インターナショナル会社と伊藤忠プロミネントUSAの社員44人が、JP Morgan Chase主催のCorporate Challengeというセントラルパーク保全活動に参加・寄付を行いました。今年34年目であり、当日はセントラルパーク内3.5マイルのレースに、373会社から約15,000人が参加しました。伊藤忠のメンバーは揃いで作った青いITOCHU Tシャツを身につけ、それぞれの体力と気力にあわせ思い思いにレースを楽しみました。



■ 日本赤十字社による献血と骨髄ドナー登録会開催(東京本社)

東京本社献血を行い、申し込み者数158名の方々に献血にご協力いただきました。また、骨髄バンクドナー登録では18名の登録がありました。

7月の活動

■ 第2回 さいたま農村ボランティア(田の草取りとザリガニ釣り)

5月に植えた苗は順調に成長していました。まずは「たこすり器」なる草取用の道具の説明を聞き、靴下をはいたまま田んぼに入ります。除草剤を使用しないで育てているため、たびたびの草取りが必要です。

草取りの後は近くの用水路でザリガニ釣りを実施。これが取れる取れる。入れ食いです。しかし、用水路をコンクリートで舗装してしまった場所にはザリガニ等は住めないそうです。

作業終了後は、希望者でジャガイモ堀とブルーベリー狩りを体験しました。



■ 世田谷の木村農園にてぶどうの袋がけボランティア実施

7月10日、26名がぶどうの袋がけに参加しました。両手をあげたまま1房ずつ袋をかけていく作業はとても大変です。しかし、手作業でなければ行えず、農家の方々の苦労が少しでも軽減できた。子供達は、背の低い場所に植えてあるワイン用のぶどうに、大人同様1房ずつ袋をかけていきました。



■ 「粕江水辺の学校」多摩川清掃とハヤの産卵床整備、川の安全教室に参加

7月11日、雨が降りそうな蒸し暑い天気の中、地元の子供達に混じって、グループ社員と子供34名が参加しました。

まずは地元の方々が整備しているビオトープの自然観察をしながら川原へ移動。その後、川原のゴミ拾いコンクールをした後には、いよいよライフジャケットをつけた姿で川に入り、産卵床の整備です。整備が終わった30分後には、もう魚が卵を産みに来たそうです。

そして、最後は子供達お待ちかねの安全教室です。講師の中本賢さんに、川で万が一が流されてしまった場合の対処方法を分かりやすく楽しく教わりました。



■ 障がいをおもちの方へプレゼント「プリザーブドフラワーコサージュ」作成ボランティア

7月27日の東京本社でのロビーコンサートにご招待している、障がい者施設アガベセンターのみなさんにプレゼントするために、社員ボランティア26名がコサージュを作成しました。

「楽しみながら人の役に立てる」と参加者には毎年好評です。



■ 伊藤忠商事 2010 ITOCHU LOBBY CONCERT

毎年、東京本社ロビーコンサートにアガペセンター※の利用者の皆さんをご招待しています。今年は職員の方含め26名にニューヨーク・シンフォニック・アンサンブルの音楽をお楽しみいただきました。このコンサートには伊藤忠グループボランティアが誘導などに参加しています。

※ 社会福祉法人日本キリスト教奉仕団 障がい者総合福祉施設



8月の活動

■ アサヒビールのタベにてチャリティバザー開催

8月3日、「アサヒビールのタベ」にて、チャリティーオークションとバザーを行いました。今年の売り上げと寄付金は、NGO「国境なき子どもたち」の運営する、フィリピンマニラ郊外の青少年自立支援施設「若者の家」の活動資金に充てられます。この施設は2009年12月に、当社の支援により、リニューアルオープンされました。



■ 第2回生活資材・化学品カンパニー企画「お仕事参観日」開催

今年も8月17日(火)「夏休み子供プロジェクト」を実施しました。32名の社員の子供達は、昨年同様朝の通勤ラッシュを体験、新入社員から挨拶の仕方を教わり緊張した面持ちで職場で実践しました。

今年の目玉は青山小学校をお借りして行った舞台演出家湊先生によるレッスン。緊張も直ぐに緩み、新しい友達もでき、午後には仕上げとしてグループ毎に「寸劇」を作り皆の前で発表しました。

今回のテーマは「チームワーク」「目標を成し遂げる達成感」「自己演出」であり、夕方の職場訪問で実際にお父さん・お母さんが働く姿を見て改めて実感頂きました。

“昼間のパパ・ママはちょっと違う”のコンセプトの元に始めた本プロジェクトも2年目を迎え更なる進化をとげました。



■ 神宮外苑花火大会に近隣の施設利用者招待(東京本社)

8月19日、毎年東京本社隣の神宮球場にて行われる花火大会に、近隣の施設利用の子供達を招待しました。目の前であがる花火に、子供達は歓声をあげ楽しんでいました。

9月の活動

■ 日本赤十字社による社内セミナー「高齢者介護」(東京本社)

9月22日、日本赤十字社による高齢者介護セミナーを実施し、車椅子の操作方法と移乗のコツ、麻痺のある方に対する着替えの介助方法を教わりました。

初めて車椅子に触る社員も多く、扱い方に四苦八苦していました。



■ 港区立青山小学校6年生社会科校外授業「地球温暖化について」

9月24日、東京本社ビルにて社員先生による地球温暖化と伊藤忠の森林再生・生態系保全プログラムについての授業が行われ、生徒たちは伊藤忠の環境に対する取組みと森林の重要性を学びました。子供からはするどい質問が相次ぎ、先生役の社員はたじたじでした。



■ 第2回ジャカルタ日本祭りに子供達を招待(ジャカルタ事務所、伊藤忠インドネシア会社)

9月25日～10月3日の約1週間、ジャカルタ州政府・日本大使館協力による第二回ジャカルタ日本祭り(JJM)が開催されました。伊藤忠はアニメ映画祭へ映画を2本提供し、社員がその来場者対応をするとともに、入場料全額をJJM事務局に寄付しました。

また、昨年度に引き続き、下記も実施しました。

1. 当地大学生向けに『日本企業における労働倫理と文化背景』セミナーを開講。昨年を大幅に上回る54名の参加者を数えました。
2. 以前から支援を続けているJakarta近郊、Bekasi市で生活する最貧層の子供達をこのアニメ映画祭及びJJMフィナーレに招待しました。



招待費用は、当地伊藤忠グループの会社や本社他からの出張者等、趣旨に賛同頂いた皆さんからの個人寄付のみで賄っています。昨年、支援している小学校の半数程度をジャカルタ見学に招待したので、今回は残りの子供達の招待となりました。昨年同様、多くの社員ボランティアが参画し実現したものです。この子供達にとって、ジャカルタそのものが初めてで、多くの車やバイク、高層ビルやショッピングモール、映画館や映画、すべてが初めて見るものばかりで、校長先生からは『子供達にとって、すべてが驚きで、大興奮でした』とのメッセージがありました。

今後ともこの子供達の支援活動を継続していきたいと思います。

■ 第3回 さいたま農村ボランティア(稲刈り)

さいたま市での稲作もいよいよ大詰めです。

寒い日でしたが、子供も一緒に慣れない鎌で稲を刈り、ワラを使って束にまとめて行きました。

この後、稲は天日で干され、1ヵ月後には食べられるようになります。お米には神様が宿っているといいますが、食べられるようになるまでには本当に大変な作業が沢山あります。次回で、自分たちが育てたお米を食べられることを期待しつつ、解散しました。



■ チャリティバザー参加(伊藤忠ブラジル会社)

9月25日～26日、伊藤忠ブラジル会社はNGO Kibo no Ie主催のチャリティバザーに参加しました。Kibo no Ieは障がいをもつ人々を助けることを目的として、日本移民の方により設立された団体です。

当日、社員とその家族、友人とともに餃子の屋台を出店し、2,400個もの餃子が売れました。このバザーの収益はすべて寄付されます。大変でしたが、障がいを持つ人々の生活向上に貢献できていることを実感し、充実した楽しい1日でした。



■ 青山熊野神社祭りに参加

9月26日、18名が熊野神社祭りの神輿担ぎ手として参加しました。

今年は、宮神輿が新しくなり初のお披露目です。

伝統的な神輿渡御のとおり、神名旗、先触太鼓、神職、宮世話人などが神輿の前を歩き、神輿の後を氏子、そして神主が馬にのり、やってきます。

その行列の立派さにも驚きですが、神輿の大きさに2度びっくり。2t以上あるとの事です。次回の宮神輿渡御の際には是非みなさんも見学にいらしてください。



■ 「希望の車いす」タイへの中古車椅子輸送に協力

NPO「希望の車椅子」の趣旨に賛同し、伊藤忠商事、ITCネットワーク、伊藤忠ロジスティクスが、タイへの110台の中古車椅子と備品、合わせて144個の荷物の輸送に協力をしました。

伊藤忠商事とITCネットワークは、輸送費(コンテナ代)を全額寄付。伊藤忠ロジスティクスは、コンテナ輸送の料金を割安で提供しました。

きっかけはITCネットワーク社員が車椅子の修理をしているボランティア活動で、今回協力することになったものです。



■ New Yorkにて「First Night Kit」プログラムに参加(伊藤忠インターナショナル会社)

9月、伊藤忠インターナショナル会社では、社員有志から夏の間集めた衛生用品(石鹸、シャンプー、コンディショナー、歯ブラシ、歯磨き粉等)や、靴下、文房具、子供用のおもちゃ等をNew Jersey州の非営利団体Jersey Cares主催のFirst Night Programに寄付しました。このプログラムは家庭内暴力や家出等の理由で一時的な宿を必要とする人たちの避難所に衛生用品を寄付するもので、伊藤忠インターナショナル会社からは社員の協力の元、ダンボール3箱分のこれらの物資を寄付しました。

10月の活動

■ 青山まつりに「プレオーガニックコットンプログラム」出展

10月15日～17日、青山まつりにて開催された青山デザインアワード・表参道ストリートギャラリー2010にて、プレオーガニックコットンプログラムの展示を行いました。

クルック、伊藤忠商事、青山学院大学ワタリラボの学生と三者協同にて制作した、自然との共生を表現したブースで、POC製品やパネルを展示。地域の活性化にも協力しています。



■ 第4回 さいたま農村ボランティア(イモ掘りと竹パンづくり)

10月23日に芋ほりと竹パンづくりを実施しました。まず、35名の参加者みんなでパンの生地をこねます。まるく形を作ったら、パン生地はしばらく寝かせて発酵させます。その間に、みんなで芋ほりです。サツマイモと里芋を掘りましたが、里芋は今年の夏、暑すぎたために十分成長していませんでした。農業は天候に左右されてしまうので大変です。

その後、お父さんたちが切り出した竹にパン生地を巻きつけ、炭で焼きます。満遍なく焼けるようにころころ転がすので竹が良いですね。みんなで焼いたパンは、素朴でとても暖かい味がしました。



■ 「生物多様性交流フェア」に出展

あいち・なごやで、生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が開催されました。COP10にあわせて開催された「生物多様性交流フェア」に伊藤忠商事も出展し、環境に配慮した事業活動と150周年記念プロジェクトとして推進している、「ボルネオ島森林再生と生態系保全活動」の紹介をしました。

このフェアは、政府・自治体、県民/市民、NGO/NPO、学術、企業など国内外の多様な団体が参加をしており、生物多様性の課題や取り組みを持ち寄り、議論し、交流する絶好の機会となりました。



■ ニューヨークの公立学校でボランティア(伊藤忠インターナショナル会社、伊藤忠プロミネントUSA)

10月23日、伊藤忠インターナショナル会社と伊藤忠プロミネントUSAの社員と家族が、NY Cares主催のボランティア活動に参加しました。このボランティア活動は、NYの110の公立学校で清掃や図書館の整理などを行うもので、伊藤忠グループは2003年から参加しています。当日、社員たちは廊下の壁に飾る絵を描いたり、地下倉庫の整理や図書館の本の整理を行いました。教頭先生も鮮やかな絵にとっても感動していらっしゃいました。



■ 「第19回 ほほえみスポーツフェスタ金沢」にボランティアとして参加

10月24日に実施された「第19回 ほほえみスポーツフェスタ金沢」に北陸藤親会の方々とともに伊藤忠グループとして14名がボランティア参加をしました。

このスポーツフェスタは金沢市が障害のある方々へのスポーツの普及とスポーツを通じた交流を目的として行っており、金沢支店は第1回より参加をしています。

当日は参加者とボランティアで約400名の参加があり、買い物競争や玉入れなど8種目の競技に汗を流しました。

それぞれの競技には参加者全員に賞品が用意され、その中には金沢支店食品課のお取引先から協賛を頂いたものがたくさん入っていて、賞品をもらった参加者は笑顔が一杯でした。

また、開会式では金沢市長から伊藤忠グループに対し御礼の言葉をいただきました。

金沢支店から北陸藤親会とボランティアの輪が広がって来た事が嬉しい、この輪が少しずつでも広がればいいなと感じた一日でした。



11月の活動

■ 都会の真ん中の生物多様性を学ぶ～銀座ミツバチプロジェクト見学と日比谷公園の自然観察会

都心の生物多様性を学ぶため、NPO銀座ミツバチプロジェクト様のご協力を得て、11月6日養蜂場の見学と、三越テラスガーデンに作られた菜園を見学させていただきました。

まず、密集したビルの屋上に巣箱が設置されていることに一同びっくり！

お話を聞いてみますと、当初は近隣の方々より「針のある昆虫を街に放して大丈夫か？」と反対もあったそうですが、現在では、ミツバチのために街のあらゆる所に花の咲く木々が植えられ、その木になる実を食べるために小鳥が戻ってきたり、また銀座の商店の交流が深まるなど、苦労以上の嬉しさがあるとお話を伺いました。

その後は、「ふれあいのネットワーク」自然観察部会による日比谷公園観察会に出発です。

普段は気にも留めずにいた木々を、分かりやすく楽しく解説していただき、いつもの街路樹を見る目も変わったような気がしました。



■ オランウータン勉強会(多摩動物公園)

11月7日、多摩動物公園にてアジアの動物とオランウータン勉強会を実施しました。

指導員の方よりインド象の1本の足には1トンの体重かかるので足の裏にスポンジ的な仕組みがあること、シベリアタイガーの子供は生まれたときは子犬サイズだが1歳の誕生日には体重100キロになっているなどさまざまな事を教えてもらい、オランウータンのコーナーでは生活形態の説明のみならず、親子が空中のロープで移動する様子も観察しました。また、動物が直面しているさまざまな問題点(個体数が少なく繁殖にも問題が出ているなど)も聞いて、参加者は生態系保全の必要性も改めて理解できました。



■ 「FITチャリティ・ラン2010」に参加

11月7日、国立競技場及び神宮外苑周回コースで開催された「FITチャリティ・ラン2010」に初参加しました。会社からはエビアン約1000本を寄付しました。ランナーとして10キロ、5キロ、ウォークの3種目に11名が参加し全員が完走、また、給水所のボランティアで2名が参加しました。当日は101社から6716名が参加する大規模なイベントでした。

チャリティ・ランの参加費や協賛金は「難民支援協会」「ばれっと」

「明晴学園」を含む10の非営利団体に寄付されます。レース後には豪華賞品が当たるチャリティくじの当選発表もあり、会場は大変盛り上がりしました。



■ 青山小学校生徒による勉強成果発表会開催

9月に東京本社ビルにて温暖化を学んだ青山小学校6年の生徒たちは、学校に帰った後、自分たちで「どうしたら温暖化をとめられるか」を調べました。11月12日に東京本社ビルにて、そのための発表会を実施。当日は社員が多く見守る中、パソコンを使ってプレゼンを行いました。一様に緊張していたようですが、小学生とは思えないほどの資料の立派さに社員の方が気が引き締まり、さまざまな質問が飛び交っていました。



■ 韓国・清溪川沿いの遊歩道清掃を実施(韓国伊藤忠株式会社)

11月13日、韓国伊藤忠の社員とその家族ら27人が清溪川沿いの遊歩道の清掃ボランティアに参加しました。

この河川は会社より徒歩約10分の場所にあり、観光地として有名な河川です。

当日は寒い日でしたが、取引先の方々も参加してくださり、清溪



川の広場から東大門まで約2.9kmの距離をみんなで協力しきれいにしました。

ささやかな地域貢献ができてとても充実した日となりました。

■ 第4回伊藤忠野球教室開催

11月27日、障がい児を対象にした野球教室を、相互会野球部と伊藤忠テクノソリューションズの協力の元、開催しました。

まずは、日本身体障害者野球連盟の矢本理事指導の親子体操で、ボランティアも子供とともにウォーミングアップをしつつ交流を深めた後、元ヤクルト球団投手の矢野講師による基礎と実技の練習をしました。

参加者のお母様より「お友達の前で声を上げて笑ったところを見たことがなかった子が、初めて笑った」と感動のお言葉をいただきました。



12月の活動

■ 伊藤忠設立記念行事(音読ライブ、日赤によるデモンストレーション、COP10フェア展示再現)

毎年設立記念日の12月1日と2日に、東京本社1Fロビーにて各部署によりさまざまな展示が実施されます。

音読ライブは、社員ボランティアグループ「ふれあいのネットワーク」音読部会が、毎月第2土曜日に渋谷区の高齢者介護施設にて行っている様子を、社員に紹介するために毎年実施されているライブです。また今年は、生物多様性フェアでの展示再現と、日本赤十字社による包帯の巻き方教室を開催しました。包帯の巻き方にも色々あり、いざという時に眼帯の代用になったりする裏技も教えていただきました。



■ 社会貢献活動週間「ボランティアウィーク」(11月24日～12月10日)

伊藤忠商事では、12月1日の設立記念日前後の1週間ずつをボランティアウィークと位置づけており、さまざまな活動を展開しています。今年は、社員が自主的に活動しているボランティアを報告すると希望団体に寄付されるという「三方よしキャンペーン」を実施いたしました。昨年に引き続き、名古屋、九州支社、福井、新潟支店、事業部のみなさんが「絵本を届ける運動」に参加しました。

<活動例>

ブックマジック(NPO JEN)、絵本を届ける運動(SVA)、途上国に送るぬいぐるみ作成(フェリシモ)、港区の一人暮らしの高齢者へ宛てた年賀状作成、他



■ 東京本社B1FロビーにてWFPへの募金呼びかけ

東京本社B1Fロビーにて、12月9日～10日、WFP 国連世界食糧計画に対する募金活動を実施しました。当日は寄付して下さった方に農村ボランティアにて収穫したお米をプレゼントしたり、活動紹介のパネルも展示。202,540円の募金が集まりました。



■ シャンティ国際ボランティア会のクラフトエイド社内販売会と民族衣装試着会実施

12月14日、東京本社1Fロビーにてシャンティ国際ボランティア会の扱っているフェアトレード商品を販売しました。

当日は、カレン族の民族衣装試着体験も実施し、クリスマス前とあってプレゼント用品を購入する女子で賑わいました。



■ 日本赤十字社による献血と骨髄ドナー登録会開催(東京本社)

東京本社献血を行い、申し込み者数150名の方々に献血にご協力いただきました。また、骨髄バンクドナー登録では12名の登録がありました。

■ ふれあいのネットワーク* 高尾山のダイヤモンド富士とムササビ観察会

12月23日に、ふれあいのネットワーク主催で高尾山のダイヤモンド富士とムササビ観察会が実施され、講師含めて 27名が参加しました。

当日は暖かくて穏かなお天気に恵まれ楽しい観察会となりました。4号路を山頂にゆっくり向かいながら、講師の丁寧な説明のもと冬の植生を観察しました。

ダイヤモンド富士の観察場所は近年になく大混雑でしたが、夕日が富士山に沈む時にはみんなが「オー」と声をあげる程感動でした。ムササビは「グルルルル、キーキー」という鳴き声も聞け木の上から滑降する姿を3匹もみられました。

高尾山といえば山頂目指していくつかのコースを登ったり、ケーブルを使って誰でも気軽に歩ける身近な山ですが、ちょっと立ち止まってよくみると、樹木の種類もたくさんあり、昆虫や動物など多くの生き物たちが生きているすばらしい環境があることも知っていただけたのではないのでしょうか、

今年は生物多様性年です。今年の最後を飾るのに相応しい一日でした。



■ 日本看護協会主催のクリスマスキャロルコンサートに伊藤忠コーラス部が参加

12月23日、今年で3回目となる日本看護協会主催のクリスマスキャロルコンサートに伊藤忠コーラス部が出演しました。会場は表参道に面しており、表参道生誕90周年のイルミネーションが光り輝く中、指揮吉川貴洋、シンセサイザー尾尻桜子にて38名のコーラス部員が街を散策する人々に、クリスマスの歌を届けました。

このコンサートは商店街振興組合原宿表参道櫺会が後援しており、黒川紀章氏が設計した日本看護協会ビルの大階段を利用したコンサートで、すっかり定着し、来年も出演を要請されています。伊藤忠コーラス部は、今後もコーラスを通じて地域の発展に貢献して行きたいと考えています。



■ 第4回 さいたま農村ボランティア(落ち葉かきと餅つき)

今年の最後となる農村ボランティアが12月26日に実施されました。今回はたい肥を作るための落ち葉かきです。子供達も大人同様に熊手をもち、落ち葉を集めます。一部の子供達は“巨大ちりとり”ならぬ、「てみ」という物で落ち葉を集めて収集袋に入れます。

落ち葉だらけの広場は、見る見る間にきれいになり、2tトラック2台分集まりました。

その後はお待ちかねの餅つきです。子供達の「ヨイショー」という大きな掛け声の中、おいしいお餅ができ上がり、ペロッと平らげてしまいました。



■ New Yorkにて「Angel Tree」プログラムに参加(伊藤忠インターナショナル会社)

伊藤忠インターナショナル会社は、NY州Queensにある「Forestdale Foster Home」(里親や養子縁組紹介、里子に出された子供達への支援等を提供する非営利団体)を通して、生後2ヶ月の赤ん坊から18歳までの30人の恵まれない子供達にクリスマスプレゼントを寄付しました。社員有志はオフィスロビーのクリスマスツリーに飾られてある子供達の名前、年齢、希望する(小さい場合は団体のスタッフが好ましいと思われる)ギフトが書かれた天使型の飾りから好きな飾りを選び、各自そのギフトを購入・包装しました。ギフトは、ギフト券やコートから、iPod、スクーターや幼児用歩行器等、例年以上にバラエティに富んでいました。子供達が喜んでいるという手紙が団体から届きました。



■ 新年のプレゼントを持って親のない子供を訪問(アゼルバイジャン パクー事務所)

伊藤忠パクー事務所では、毎年、孤児たちや、障がいをお持ちの方々に寄附などを通じてさまざまな支援を行っています。昨年12月末には3人のスタッフがクリスマスのプレゼントをもち、養護施設を訪れました。子供達のくっつくのない笑顔に迎えられ、みんな涙が抑え切れませんでした。



社会貢献レポート(2011年1月～3月)

 組織統治
  人権
  労働慣行
  環境
  公正な事業慣行
  消費者課題
  コミュニティへの参画及びコミュニティの発展

1月の活動

■ 未使用の余剰カレンダーを団体へ寄付

カレンダーを埼玉の幼稚園や都内の施設などに寄付しました。

■ 「赤坂青山美しいまちマナーのまち」キャンペーン参加

1月27日、28日に「赤坂青山美しいまちマナーのまち」キャンペーンに参加しました。近隣の企業のみなさんと外苑前駅周辺の清掃活動を行いました。

2月の活動

■ 日本赤十字社による献血(大阪本社)

大阪本社ビルにて献血を行い、65名の方々に献血にご協力いただきました。

■ チャリティーバレンタインチョコの社販を実施

2月8日、食料カンパニーの協力を得て、チャリティーチョコの社内販売を行いました。今年は団体を個人的に支援している数学者のピーター・フランクルさんが、ボランティアにて駆けつけてくださり、社員とともにチョコの販売をするのみではなく、すばらしい大道芸も披露してくださいました。今回の利益全額はNPO国境なき子どもたちに寄付し、マニラに完成した「若者の家」の子供達の教育支援活動に使用します。



■ 社員作成のぬいぐるみを途上国の子供達へ寄付

株式会社フェリシモのハッピートイズプロジェクトに共感し実施しているもので、4年目となる今年は23名の社員が参加しました。



■ 「キッズデーinキッザニア甲子園」実施

2月16日、大阪本社とキッザニア甲子園にてファミリーイベントを開催しました。当日はキッザニア甲子園を貸し切り、大阪本社のある大阪市中央区の小学生や社員家族など850名を招待、施設内のアクティビティを通した様々な職業を体験し、楽しいひと時を過ごしてもらいました。



キッザニア訪問前には大阪本社に伊藤忠グループ社員親子50名が集合。2班に分かれて、職場見学ツアーを実施しました。お父さん、お母さんが働くオフィス、社員食堂、役員室などを見学してもらいました。子供達は働くことの大切さを学び、また、家族のコミュニケーションをより深める機会にもなったようです。

3月の活動

■ 東日本大震災の被害に対し、義援金4億円を拠出

東日本大震災による被害に対し、伊藤忠商事は義援金として4億円を拠出することを決定しました。今後被災地の状況に合わせ、最大限の支援を行う所存です。被災地の皆様に謹んで御見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

■ 東日本大震災 社員募金を実施

3月15、16日の2日間、東京本社B1ロビーで緊急の社員募金を実施しました。東京本社以外の国内外の各拠点でも募金活動が実施され、3月末時点での募金額は約815万円となりました。集まった国内分の募金は日本赤十字社、海外分は各拠点の赤十字社もしくは同様の団体に寄付され、被災者の皆さんの支援に充てられます。



■ 被災地への救援物資支援

伊藤忠商事は義援金4億円の拠出に加え、3月は被災地で必要とされている食料や衣類等、以下の物資供給に協力しました。

1. 衣料類
下着、子供用衣服、タオル類 合計約1万点を宮城県に搬入手配中です。
2. 室内用簡易ハウス(テクセル製品)
東松島市の被災所に搬入手配中です。更衣室などに活用される予定です。
3. SPAM(肉の缶詰)
1500ケース(36,000個) 岩手/宮城/福島の3県にそれぞれ搬入済みです。



上記の物資は全て各県の要請のもとに手配しました。

■ 現地の子供達から伊藤忠インドネシアへ応援メッセージが届きました

伊藤忠インドネシアの社員は、現地でゴミ拾いをして生計を立てている子供達を支援してきました。



今回の東日本大震災を知ったこの子供達が、「日本に金銭的な支援はできないけれど、支援のお返しにせめて応援メッセージを送りたい」と、被災者に宛てた応援レターや絵を届けてくれました。